

男の子におちんちんを見せつけられて 遊んだ思い出

小学生の時の話。私はクラスの仲良しグループの3人の男の子と毎日一緒にいた。健太と悠斗と翔太。私はその輪の中で遊ぶのが好きだった。

ある夏の放課後、公園のブランコの近くで、健太と2人きりになった。悠斗は塾で、翔太は歯医者だったかな。いつものメンバーが揃わない日だったけど、健太といつものように遊んでた。「なあ、愛梨、ちょっと面白いもん見せようか？」って、急に変なテンションで言ってきた。私は「え、なになに？」って、ワクワクしながら聞いた。

そしたら、健太が「これ！」って、ズボンのチャックを下ろして、パンツの隙間からおちんちんを見せてきた。「うわ、なにそれ！？」って、私は思わず叫んだ。おちんち

んを実際に見たのは初めて。びっくりして、顔が真っ赤になったけど、なんか目が離せなかった。「見てちんちん！すげえだろ、大きくなるんだぜ！」って、健太が自慢げに言う。私は「え、大きくなるの？どうやって？」って、純粹に気になった。

健太はニヤニヤしながら、「ほら、こうやって！」って、おちんちんを指で軽く触って擦り出した。するとだんだんおちんちんが硬く、大きくなってきて・・・ピクピク動かして見せてきた。「うわ、動いてる！」って、私は笑いながら、ちょっと近づいてじっと見た。「愛梨、ちょっと触ってみねえ？」って、健太が言ってきた。私は「え、触るの？やだよ、汚いじゃん！」って、断った。でも、健太が「全然汚くねえよ！ほら、ちょっとだけ！」って、めっちゃお願いしてくる。ニヤニヤしながら、おちんちんをピクピク動かして、「な、頼むよ！」って。私は「うーん、まあ、ちょっとだけなら...」って、好奇心に負けて、指で

チョイって弾いてみた。なんか、弾力があって、ピクって動いた。「うわ、動いた！」って私が笑ったら、健太が「うっ！」って、顔を赤くしてたけど、なぜか気持ちよさそうだった。